

## 事業者における自己評価結果（公表）

公表：令和 元年 6月 1日

事業所名 放課後デイサービス いちご

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		国の指定基準を満たしたスペースを確保。個別活動、休息やクールダウン用に個室や防音室を設けている。	国の指定基準を満たしたスペースを確保をしています。 個別活動、休息やクールダウン用に個室や防音室を設けています。
	②	職員の配置数は適切である	○		国の指定基準を満たした職員数を配置し、加配職員を配置している。可能な限り個別対応を行っている。	適切であり 現状を維持していく
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		可能な限りバリアフリー化している。また、整理整頓を徹底し、安全な動線の確保を行っている。	現状維持をしていく
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		職員間の連携を強化するために、簡単に明確な目標を定める事に努め、定めた目標に対しての具体的なアプローチを実施し、期間ごとに振り返りを行っている。	有用な目標設定の為に、症例検討等を定期的の実施し、評価スキルの向上を図る。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		随時、家族様の意向を聞き取る為のアンケートを実施し、業務改善に努めている。	「わからない」「未記入」の減少の為に、保護者に分かりやすい説明を積極的に実施。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		自己評価結果を早急に公開し、来年度以降も公開実施予定としている。	ホームページを適宜更新、見直しする事で、情報内容の改善を図る。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価体制を検討中。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事業所内外において、研修会等に職員各自が積極的に参加している。	
適切な支	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		統一したアセスメントシートを用いて、お子様や保護者のニーズに沿った計画作成を行っている。	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		統一したアセスメントシートを元に成長に合せた支援を実施している。	アセスメントツールの活用をより促進し、統一された繋がる支援を提供する。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		児童発達管理責任者・保育士・児童指導員が、能力や興味を評価し、持続性のあるプログラムを提案している。	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		環境や難易度などを考慮しコミュニケーションに重点を置いたプログラムを立てている。また、適宜見直しを実施している。	

援 の 提 供	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○	子供たちが自身で目標を定め、課題に組めるように支援をしている。自分で目標を設定する事が苦手なお子様は職員と一緒に楽しく目標や課題を決める機会を作っている。変化が苦手なお子様には、徐々にスケジュールを変化させている。	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○	個別活動・集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成している。	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	ミーティングの機会を積極的に設け、個別の手順書や共有すべき情報や支援方法を伝達している。	十分とは言えない為、今後も全職員を対象に積極的の打合せに参加し、報告・連絡・相談の徹底を図る。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	気づいた点を共有し、簡易な事例であれば、対応方法や介入手段をすぐに職員間で検討している。	検討後、対応開始までの時間短縮に努める。また、対応後はできる限り早急にフィードバックと情報共有を行う。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	客観的状況を記録するように適時指導している。	
	⑱	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○	適宜、スタッフ間でのミーティングを行い、支援方法に改良の余地がないか検討している	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○	学校、家での連携を図りながら自立支援を中心に、創作活動、地域交流などプログラムの多様化を促進している	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児発管・保育士・作業療法士など専門職が積極的に参加している	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○	適宜、電話やカンファレンスに参加し情報共有に努めている。必要に応じて先生にも協力・指導・介入して頂いている。	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	協力医を中心に連携を図っている	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	受入れの際には、事前に頂いた情報を元に、実際に保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等に赴き、普段の様子を確認している。	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	養護学校進路指導教諭と情報の共有を図り、必要に応じて電話連絡を実施している。	
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	ご家族を介して児童発達支援センターや発達障害者支援センターから情報を得ている。	
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		現状は場所の共有が主となっている。スタッフの働きかけで活動を一緒にする機会を増やす。
㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○		協議会の活動が活発化されておらず、参加の機会が少ない。	

携	⑳	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	連絡帳、電話連絡、カンファレンス、関係機関の連絡相談により、共通理解を深めている	
	㉑	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	適宜、指導や対応を行っている。できる限り専門用語を使わず、無理なく実施できる方法を提案している。	
	㉒	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約の際に分かりやすく、書面と説明その後の電話対応でも質問を受け付けている	
	㉓	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	保護者からの相談に随時対応し、助言を行っている。	
保護者への説明責任等	㉔	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	親子行事を開催し、保護者同士の連携の場を設けている。	今後、保護者の方と相談しながら保護者会の設立を検討。
	㉕	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情マニュアルに基づいて対応している。	
	㉖	定期的に会報等を発行し、活動概要や行動予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	連絡帳、インスタグラム、ホームページで適宜公開している。	
	㉗	個人情報に十分注意している	○	契約の際、個人情報の使用範囲や使用方法を説明し同意をいただいている。	
	㉘	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	分かりやすい説明や連絡手段を個別に検討している。	
	㉙	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	事業所の行事に地域の方を招待している	
	㉚	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○	事業所の誰でも見れる場所に置いて周知している	
非常時等の対応	㉛	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	管理会社と連携し、定期的に避難訓練を実施している。	
	㉜	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	研修会に参加し事業所内で伝達している。また、事業所内で定期的に支援方法や環境の見直しを行っている。	
	㉝	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	同意書を作成し、保護者に説明を行った上で同意を得る体制を整えている。これまで同意を得なければならないような機会はない。	

④2	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	保護者を通じ医師からの指示に基づき対応している。	
④3	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例集の作成まで至らず。早急に整備する。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。